

様式第6号(第18条関係)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金実績報告書

令和5年5月10日

宮崎市長 清 山 知 憲 殿

主たる事務所の所在地	宮崎市大塚台西2丁目18番地1
名 称	大塚台地域まちづくり推進委員会
代表者の氏名	会 長 相 徳 勝 則
電 話 番 号	0985-47-2010

令和4年3月31日付けで交付決定のありました宮崎市地域コミュニティ活動交付金については、宮崎市地域コミュニティ活動交付金に関する規則第18条第1項の規定により、関係書類を添えて実績報告書を提出します。

添付書類

- (イ) 事業実施報告書
- (ロ) 収支決算書
- (ハ) 事業別収支計算書
- (ニ) 積立金管理状況報告書
- (ホ) その他

(様式第5号)

令和4年度 事業実施報告・収支決算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

1 総括

本年度の事業計画では、各部会から17事業の計画が提案されましたが、コロナウイルスの感染拡大により、8月に計画していた福祉部会の子ども食堂等は中止を余儀なくされました。

当委員会の主催としては初めての「大塚台地区夏祭り」を、10月に時期を変更し、「秋祭り」として開催しました。3年ぶりの大塚台地区でのお祭りということもあり、たくさんの方が来場し、喜ばれました。また、各部会においては、感染対策をしながら、7割くらいの活動を実施する事ができました。

2 収支決算

(1) 収入の部

(単位：円)

項目	予算	決算	差	備考
地域コミュニティ活動交付金	2,109,000	2,109,000	0	
繰越金	920,019	920,019	0	
雑収入(スポーツ健康増進事業収入)	8,000	1,600	▲ 6,400	
雑収入(リーダー育成事業収入)	0	0	0	
雑収入(大塚台総合夏祭り事業収入)	0	10,000	10,000	
雑収入(預金利息)	300	15	▲ 285	
合計	3,037,319	3,040,634	3,315	

(2) 支出の部

(単位：円)

分野	事業名	実施年数	予算	決算	差	備考
防	地域安全見守りパトロール応援事業	14年目	87,000	78,425	▲ 8,575	
防	自主防災事業	14年目	52,000	23,384	▲ 28,616	
防	災害時医療支援ボランティア活動事業	5年目	77,000	28,120	▲ 48,880	
福	ふれあい活動事業	14年目	70,000	34,782	▲ 35,218	
福	子育て支援事業	10年目	70,000	43,747	▲ 26,253	
福	ボランティア事業	9年目	220,000	95,172	▲ 124,828	
環	里山創造活動事業	14年目	71,100	70,722	▲ 378	
環	環境美化活動事業	14年目	62,000	41,819	▲ 20,181	
健	グラウンドゴルフ交流事業	14年目	45,000	13,100	▲ 31,900	
健	ウォーキング事業	14年目	26,000	12,024	▲ 13,976	
健	高齢者支援事業	2年目	280,000	305,986	25,986	
教	花まる事業	4年目	65,000	57,685	▲ 7,315	
教	少年が大志を抱く事業 ～未来の大塚台を担うリーダー育成～	4年目	63,000	24,534	▲ 38,466	
教	my米(マイマイ)事業	3年目	70,400	21,600	▲ 48,800	
他	リーダー育成事業	14年目	67,000	18,558	▲ 48,442	
他	大塚台総合夏祭り事業	3年目	250,000	240,660	▲ 9,340	
他	まちづくり事業活動支援事業	11年目	1,461,819	1,055,483	▲ 406,336	
繰越金			0	874,833	874,833	
合計			3,037,319	3,040,634	3,315	

3 実施報告

[1] 防犯・防災に係る事業

事業名	地域安全見守りパトロール応援事業	実施年数	14年目															
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度																
地域魅力発信プランとの関連	1. 安心・安全で災害に強いまち ◎地域の見守りに取り組みましょう 2. きずなが深い互助・共助のまち ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動を進めましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎子どもは地域の宝。学校との交流を進めましょう																	
目的 (期待される効果)	○自治会等、地域団体の防犯活動を応援する。 ○見守りやパトロール活動に参加する事で、地域の連帯の輪を広げ、安全・安心な地域づくりにつなげる。 ○安心・安全に対する関心を高め、犯罪や事故を未然に防ぐ事につなげる。																	
事業内容・手段	(1) 学校訪問の実施 会場 宮崎西小学校 実施時期 5月20日 内容 見守り活動報告 意見交換 (2) 青パト隊員講習会 会場 大塚台地域事務所 実施時期 7月4日 内容 隊員の資質研鑽及び会員相互の連携 (3) 各地区見守りパトロール隊員の研修 会場 大塚台地域事務所 実施時期 10月25日 内容 見守り隊員の活動報告及び情報交換 (4) 各地区見守りパトロール隊員のパトロール活動 実施時期 通年 内容 年間をとおし、日頃の見守りを自治会毎に行った。不審者情報の周知、小中学生の登下校の時間帯や都合のつく時間に子ども達の見守りや声かけ、草刈り、危険箇所点検等を実施。 (5) 青色パトロール活動・支援(4回/月) (6) 交通安全チラシ・啓発活動 配布時期 4月(全戸配布)、7月・12月(班回覧)																	
事業費	78,425円																	
対象者	地域住民・防犯活動に関わる地域団体																	
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パト隊研修会</td> <td>17人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td>青色パトロール</td> <td>80人</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>131人</td> <td>144人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>228人</td> <td>214人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和4年度	令和3年度	パト隊研修会	17人	16人	青色パトロール	80人	54人	その他	131人	144人	合計	228人	214人
年度	令和4年度	令和3年度																
パト隊研修会	17人	16人																
青色パトロール	80人	54人																
その他	131人	144人																
合計	228人	214人																
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・表通りのパトロールと並行して、住宅内のパトロールの要請があった。 ・若い人が参加できる体制を構築する必要がある。 ・小学校より感謝の言葉が寄せられた。 																	

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	交通安全並びに防犯活動は一体と考え、他の部会とも連携し、地域の課題へ幅広く対応する。	広報	⑤事業の周知	A	A	青色パトロール活動強化のぼり旗や交通安全協会の旗を小中学校や各場所に掲げた。交通安全強化に伴うチラシの配布。
	②住民の参加	A	B	隊員以外の住民の方々も自発的に地域安全に協力いただいている。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域住民の方、小中学校の安心・安全活動を牽引している。	事業の効果	⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	B	A	交通安全協会や警察署等とも連携をとり、防犯に加え交通安全への啓発にも作用した。			事業継続の必要性		○有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・パトロール隊員研修会で、地域の現状や課題が明確化され、情報の共有ができた。 ・各地区の隊員数に開きがあるので、隊員確保の努力が必要。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	自主防災事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	1. 安心・安全で災害に強いまち ◎自分達を守るため、地域をあげて災害時の体制を確立しましょう ◎命を守るため、防災意識を高めましょう 2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう														
目的 (期待される効果)	○地域社会における連携の輪を広げ、安心・安全な地域づくりに努める。 ○住民に対し、自らの命と財産を守ることへの関心を高めるとともに、地域全体の防災意識啓発を推進する。 ○地域の防災に対する関心を高める。														
事業内容・手段	(1) 第1回防災会議 会場 大塚台地域事務所 実施時期 7月15日 内 容 防災会議役員及び防災会議について (2) 第2回防災会議(自治会の自主防災隊員研修) 実施時期 8月28日 ※コロナウイルス感染拡大防止の為、中止 (3) 第3回防災会議(大塚台地区防災訓練) 会場 大塚台地域事務所 実施時期 12月11日 内 容 講演会 京都大学防災研究所 宮崎観測所 助教 山下 裕亮氏 「宮崎県民なら知っておきたい地震のイロハ」														
事業費	23,384円														
対象者	地域住民 防災会議構成員 自主防災リーダー														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>40人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>22人</td> <td>55人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>62人</td> <td>78人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	40人	23人	スタッフ	22人	55人	合 計	62人	78人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	40人	23人													
スタッフ	22人	55人													
合 計	62人	78人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・平常時の組織をしっかりと構築することや避難場所・避難通路の確認が、災害時の対応に繋がると感じた。 ・初めて聞く難しい内容ではあったが、分かりやすい説明だった。 ・地震は小さくても長く揺れが続く地震の方が、津波などに十分注意が必要であることがわかった。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	B	各自治会や各種団体から構成されており、地域の情報や住民の意見を踏まえ計画・実施している。	広報	⑤事業の周知	B	B	コロナ禍の為、各自治会単位、構成員にむけての会議や研修・講演案内を行った。
	②住民の参加	A	B	コロナ禍の為、各地区代表の受講者・情報誌により、後日地域住民への周知を行った。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域全体で、防災における十分な知識の習得や災害時の安全や生活確保のための組織の構築を担っている。		⑦住民の満足度			B
	④各種団体との連携	B	B	各自治会の防災組織の再編など、組織表の提出を求め、把握に努めている。			事業継続の必要性		○有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・ 日夜、地震について研究をされ、解き明かされた「日向灘地震について」正しく知ることができたことは今後の防災に活かしていけるものが多くあった。 ・ 大塚台では、給水対策に各世帯が真剣に取り組む必要があるとの指摘があった。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	災害時医療支援ボランティア活動事業	実施年数	5年目												
事業期間	開始：平成30年度	終了： 年度													
地域魅力発信 プランとの関連	1. 安心・安全で災害に強いまち ◎自分達を守るため、地域をあげて災害時の体制を確立しましょう ◎命を守るため、防災意識を高めましょう 2. きずなが深い互助・共助のまち ◎知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう														
目的 (期待される効果)	応急手当研修や資機材等を整備し、大災害時における応急救護処置や長期に亘る避難所生活者等の心のケアなどの災害時医療支援ボランティア活動を行う。														
事業内容・手段	(1)総会 実施時期 5月19日 書面決議（※コロナウイルス感染拡大防止の為、中止） (2)第1回研修会 会 場 大塚台地域事務所 実施時期 6月16日 内 容 「救命救急法」 (3)第2回研修会 会 場 大塚台地域事務所 実施時期 9月22日 内 容 「避難所で必要な配慮」 ー障害のある人編ー (4)大塚台総合夏祭り事業への協力 実施時期 10月8日 会 場 宮崎西小学校 内 容 救護班 (5)防災訓練 会 場 大塚台地域事務所 実施時期 12月11日 内 容 「宮崎県民なら知っておきたい地震のイロハ」 (6)研修会参加 会 場 県総合福祉センター 実施時期 2月23日 講座1-講話 3月 4日 講座2-シュミレーションディスカッション 発表 内 容 災害サポーター講座 (7)災害時に備えた備品等の準備・管理 衛生材料 5年保存水 段ボールベット (8)事業の周知活動 会員募集チラシ作成(1回)														
事業費	28,120円														
対象者	医療ボランティア会員、地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>19人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>41人</td> <td>38人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>60人</td> <td>55人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	19人	17人	スタッフ	41人	38人	合 計	60人	55人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	19人	17人													
スタッフ	41人	38人													
合 計	60人	55人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> 研修(AED)の機会を年に1~2回行ったほうがよい。難しい。訓練できて良かった。 講演を聞いて、健常者でも避難所生活は大変だが、障害を持つとより大変なことがわかった。地域事務所が災害時利用できるときいて安心した。地域事務所に自家発電もあると聞いてうれしかった。 														

◆自己評価 (評価：A 良い B 普通 C 要改善)

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	救命処置や避難時の障がい者誘導においては複数回の実践訓練が必要。近年、大きな自然災害が多く、災害に対する不安が以前以上に増している。	広報	⑤事業の周知	B	B	夏まつり事業では名入りベストを着用し、イベントの救護に関わる医療ボランティア活動を行った。
	②住民の参加	A	A	地域住民の救命や防災に対する意識が高く、各自治会から多くの住民が参加した。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	大災害時における応急救護処置や避難所生活者等の心のケアも含めた医療支援ボランティアを担っている。			⑦住民の満足度	B	B
	④各種団体との連携	A	A	防災訓練とあわせて研修会を実施し、各自治会や防災関係者と一緒に訓練に参加し、連携がとれている。	事業継続の必要性		有 ・ 無		
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> 救命処置(心肺蘇生法、AED)を実際に練習できたことが良かった。 障がいを持つ方の避難誘導の難しさを体験型で学べて良かった。 障がい者や高齢者、小さな子どもの避難誘導について検討が必要。また、対応についても再確認する。 様々な方を対象とした、災害時防災備品の見直しを行う。 医療ボランティアマニュアルについて再確認。 								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見(令和 年 月・)>						対応	未・済	
	<意見への対応>						対応	未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[2] 地域福祉に係わる事業

事業名	ふれあい活動事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動をすすめましょう。 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎子どもは地域の宝。学校との交流を進めましょう。														
目的 (期待される効果)	○高齢者に交流の場を提供し、コミュニケーションを深める。 ○引きこもりを防止し、介護予防につなげる。 ○情報交換の中から、安心・安全に関する情報を得たり、趣味や同好の輪を広げるきっかけを作る。														
事業内容・手段	(1) 映画鑑賞会 会場 大塚台地域事務所大ホール 開催日 6月30日 「キネマの神様」 参加者 43名 8月4日 「ボスベイビー」 参加者 11名 2月24日 「武士の家計簿」 参加者 35名 (2) 福祉講演会 会場 大塚台地域事務所 開催日 9月28日 内容 講演 「知ってた？介護が必要になっても家でくらすって！！」 (3) サークル活動充実の為の交流会 会場 大塚台地域事務所 開催日 11月28日 内容 講演 「コロナ禍でのサークル活動について」														
事業費	34,782円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>111人</td> <td>63人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>45人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>156人</td> <td>74人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	111人	63人	スタッフ	45人	11人	合 計	156人	74人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	111人	63人													
スタッフ	45人	11人													
合 計	156人	74人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも良い題材を選んでいただき、計画してもらい有難い。 ・子ども・孫と一緒に鑑賞でき、夏休みの思い出のひとつになった。 ・子どもであることの大切さがわかった。良いと思った。 ・高齢者にとって、療養・介護の問題は避けて通れないものなので講演会を聞いて勉強になった。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	参加された方に感想を聞き、上映作品や講演内容などに要望を取り入れている。	広報	⑤事業の周知	B	B	事業チラシを各自治会で全戸配布し、地域住民へ周知している。
	②住民の参加	A	B	コロナ感染がやや下火になり、住民の参加が昨年の約2倍に増えた。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	地域住民の交流の場としても、楽しみに待っている人がたくさんいる。引きこもり防止にも繋がっている。			⑦住民の満足度	A	A
	④各種団体との連携	A	A	各種団体の抱える課題や悩みを共有できた。連携して、今後の取組みに工夫をしたい。	事業継続の必要性		有・無		
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者に高齢者が多く、医療・介護など避けては通れない問題で講演会を開催できて好評であった。 各サークルの、高齢者問題・資金不足・後継者不足等の課題について、考えていかなければならない。 								
地域協議会からの意見への対応	<p><地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）></p>						対応	未・済	
	<p><意見への対応></p>								
地域協議会からの意見への対応	<p><地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）></p>						対応	未・済	
	<p><意見への対応></p>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	子育て支援事業	実施年数	10年目												
事業期間	開始：平成25年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎新米のお父さんお母さんに手助けしましょう ◎子どもは地域の宝。学校との交流を深めましょう														
目的 (期待される効果)	○食の提供を通して食の大切さを学ぶ ○こどもの貧困、孤食を考える ○未就学児を子育て中の親の連携・強化 ○育児の悩みやストレスの解消 ○こどもの健康や安全、しつけなどについて学ぶ														
事業内容・手段	(1) 宮崎市子ども食堂ネットワーク会議(通年2回) 日時・会場 5月15日 宮崎市役所 会議棟2F 大会議室 3月16日 宮崎市教育情報センター (2) 宮崎市子ども(地域)食堂勉強会 会場 宮崎市民文化ホール 開催日 7月25日 (3) 子ども食堂 開催日 7月29日 実施 参加者41名 8月19日 (コロナウイルス感染拡大予防のため 中止) 会場 大塚台社会福祉協議会 (4) 食品衛生責任者養成講習会(2回) 日時・会場 8月2日 10月6日 宮崎県総合保健センター														
事業費	43,747円														
対象者	幼児(幼児は保護者同伴)～中学生														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>16人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>38人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>54人</td> <td>52人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	16人	29人	スタッフ	38人	23人	合 計	54人	52人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	16人	29人													
スタッフ	38人	23人													
合 計	54人	52人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者や作ってくれた方に感謝したい。 ・野菜がたっぷり嬉しい。 ・おかわりもして、嬉しかった。また行きたい。 ・このまま続けて欲しい。 ・かぼちゃの天ぶらの作り方が知りたい。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目	評価		特記事項	評価項目	評価		特記事項
	本年度	前年度			本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	B	⑤事業の周知	B	B	学校中心にチラシを配布し、子ども達のロコミ等で事業が広がりつつある。
	②住民の参加	B	B	⑥課題解決への作用	B	B	感染防止の徹底、食中毒対策を念頭に事業を実施した。同時講演の再開に向けて検討している。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	⑦住民の満足度	A	A	参加者の保護者から感謝の声が寄せられており、子育て世代の助けになっている。
	④各種団体との連携	A	B	事業継続の必要性		有	無
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強会に参加することで、事例発表を行うなど、長く続けるコツや地域との繋がりについても学んでいる。 前回のアンケートに回答できる場を設けたい。 						
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>				対応	未・済	
	<意見への対応>						
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>				対応	未・済	
	<意見への対応>						

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	ボランティア事業	実施年数	9年目												
事業期間	開始：平成26年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎ 高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれ合い活動をすすめてみましょう ◎ 知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう														
目的 (期待される効果)	○ボランティア活動に対する住民の理解と関心を高め、会員の資質向上、情報の共有を図ることにより、大塚台地域住民のニーズに対応した良質なボランティアを提供する。 ○会員の相互理解と融和を図り、住民どうしの絆づくり、生きがいつくりに寄与する。														
事業内容・手段	1) ボランティア活動に関する相談・調整及びボランティア活動 相談日 月・水曜日/週 (相談員 各2名) 相談日 随時 (各地区相談員) 5月以降 2) ボランティアセンターつなぐ全大会・友の会 開催日 4月28日(コロナウイルス感染予防の為、中止) 3) 会員交流会 開催日 6月6日 東1・西1・県住 (ボランティア活動. 座談等) 10月22日 西3 (ボランティア活動. ストレッチ等) 11月8日 東2 (ボランティア活動. 脳トレ等) 11月9日 東1・西1・県住 (ボランティア活動. 演奏等) 2月16日 市営 (ボランティア活動. ダンス等) 4) 相談員会議 開催日 6月23日 第1回 大塚台地域事務所 2月16日 第2回 大塚台地域事務所 5) 研修活動 第1回 相談員・協力会員研修会(講演) (参加者 32名) 開催日 9月29日 場 所 大塚台地域事務所 大ホール 事業内容 「明日への道標 -生体肝移植を体験して-」 第2回 相談員・協力会員研修会(DVD視聴) (参加者 10名) 開催日 11月24日 場 所 大塚台地域事務所 大ホール 事業内容 「みまたん宅食・どうぞ便」NHKハートネットより 6) 相談員研修会の事前学習(視察) 開催日 11月11日 三股町社協 7) 広報・啓発活動 ①たよりの発行(住民向け) 1回/年 ②会員報の発行(会員向け) 3回/年 8) ボランティア活動 605件/年														
事業費	95,172円														
対象者	地域住民 ボランティア会員														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動件数</td> <td>605件</td> <td>601件</td> </tr> <tr> <td>相談員当番人数</td> <td>16人</td> <td>158人</td> </tr> <tr> <td>相談員</td> <td>12人</td> <td>14人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	活動件数	605件	601件	相談員当番人数	16人	158人	相談員	12人	14人
年 度	令和4年度	令和3年度													
活動件数	605件	601件													
相談員当番人数	16人	158人													
相談員	12人	14人													
住民の声(アンケートの結果等)	○ 地区交流会は親近感があり居心地が良かった。 ○ 毎年包丁を研いでもらって助かっている。 ○ 遠慮なく頼めて嬉しい。 ○ 高齢化している為、無くなるのは不安ボランティア活動は続けて欲しい。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	地域住民のニーズを調査し、計画実施している。	広報	⑤事業の周知	B	B	会報を通して住民に活動内容を広めている。
	②住民の参加	B	B	コロナ禍において利用会員の参加は適当である。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	住民からの要望はあり、また絆づくりのためまちづくりの取組みとして妥当と考える。	⑦住民の満足度				A
	④各種団体との連携	A	B	サポートカーを利用しての参加があった。高齢者クラブにも交流会参加の声を協力いただいた。			事業継続の必要性		(有) ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ○参加者が笑顔になった。（交流会） ○協力会員の高齢化や減少に対す対策が必要。							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済		
	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済		

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で作された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[3] 環境に係る事業

事業名	里山創造活動事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう ◎知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう 3. 若者も高齢者もすみよいまち ◎花いっぱいのもちづくりを推進しましょう。														
目的 (期待される効果)	○団地内に隣接する緑地帯の荒れた山林を手入れし、毎月1回の草刈りや清掃活動をとおして、団地住民が憩える安らぎの里山として再生させる。														
事業内容・手段	(1) もりづくり活動 実施時期 毎月1回 会場 大塚台里山公園 内容 緑地林を育成・整備・管理し、癒しの森として整備する。月1回のボランティア参加の定例作業会として実施する。 (2) 里山活用研究活動 実施時期 整備作業と同日 会場 大塚台里山公園 内容 暮らしに役立つ植物の選択と調理・加工 竹細工と暮らしへの利活用（竹ぼうき、竹柵等） 遊歩道整備														
事業費	70,722円														
対象者	地域住民 大塚台緑地林里山整備実行委員会会員														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>231人</td> <td>248人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>231人</td> <td>248人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	0人	0人	スタッフ	231人	248人	合 計	231人	248人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	0人	0人													
スタッフ	231人	248人													
合 計	231人	248人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・里山が、見違えるほどきれいになったと、住民に喜ばれている。 ・里山の資源が、人の暮らしに役立っている。 ・生きがいくりのために参加しており、作業が楽しい。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目	評価		特記事項	評価項目	評価		特記事項		
	本年度	前年度			本年度	前年度			
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	B	作業日以外にも里山を歩き、住民の反応や、使い勝手を確認している。	広報	⑤事業の周知	B	B	「森林づくりシンポジウム」において活動が紹介され、冊子にも掲載されるなど周知に繋がった。
	②住民の参加	A	B	定例作業では有志会員として、住民の方の協力が得られている。	事業の効果	⑥課題解決への作用	A	B	幅広い世代の方が参加し易いよう、実施曜日の変更に向けて取り組んだ。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	B	ウォーキングや散策をする人が増え里山を利用する人も増えている。明るい環境づくりのためにも必要な事業である。		⑦住民の満足度	A	A	里山が綺麗に整備され、地域住民や子ども達が安心して自然と触れあえる場所となっている。
	④各種団体との連携	B	B	里山整備実行委員会の協力のもと、毎回の作業をおこなっている。	事業継続の必要性		有 ・ 無		
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <p>○整備してきた「里山」には樹木・竹・食材が豊富です。子供たちの遊び場、近隣住民の憩いの場として利用ができます。</p> <p>○高齢化が続く中、若い人にも参加してもらう工夫を行っている。</p>								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応	未・済		
	<意見への対応>					対応	未・済		
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>					対応	未・済		
	<意見への対応>					対応	未・済		

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	環境美化活動事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎花いっぱいのもちづくりを推進しましょう。 ◎商店街が活気あるところになるよう、努力しましょう。														
目的 (期待される効果)	○公的利用のグリーンヒルズ敷地内の花壇を整備し、花を植栽することにより、大塚台団地住民や買い物客等への心の安らぎと憩いの場を提供する。														
事業内容・手段	(1) 春・夏作の植え付け準備・作業 実施時期 ①6月5日 ②6月12日 会 場 グリーンヒルズ大塚台花壇 内 容 ①前作の花の掘り上げ、土耕し、整地、施肥、薬剤散布 ②マリーゴールドをはじめ春・夏作花の植え付け作業 (2) 秋・冬作の植え付け準備・作業 実施時期 ①10月22日 ②11月13日 会 場 グリーンヒルズ大塚台花壇 内 容 ①前作の花の掘り上げ、土耕し、整地、施肥、薬剤散布 ②ビオラをはじめ秋・冬作花の植え付け作業 ※ グリーンヒルズ住民への作業参加を呼びかける														
事業費	41,819円														
対象者	各単位自治会、地縁団体														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>36人</td> <td>28人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>27人</td> <td>54人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>63人</td> <td>82人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	36人	28人	スタッフ	27人	54人	合 計	63人	82人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	36人	28人													
スタッフ	27人	54人													
合 計	63人	82人													
住民の声 (アンケートの結果等)	・ 植え込んだ花は美しく、通りがかりの人達が「きれいですね」「ご苦労さん」と声をかけて下さると嬉しい気持ちになる。 ・ 雑草がかなり伸びており除草に苦労した。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	当該自治会がなくなったが、グリーンヒルズの2名の方に環境部会員にとどまっていたいただき、情報を共有したい。	広報	⑤事業の周知	B	B	環境部会より住民への呼びかけをした。里山の会員の方へも呼び掛けをした。
	②住民の参加	B	B	作業日を休日の市民一斉清掃日に設定して自治会からの参加を期待したが、参加者はあまり増えなかった。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	ゆくゆくは管理主体を自治会にうつす予定だったが、自治会が解散したことで、引き続き協力する必要がある。		⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	B	B	グリーンヒルズ大塚台の住民や管理会社と情報共有を行う。			事業継続の必要性		○有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・中央に背丈の高いものを、脇には低い花を配置し、非常にまとまった感じに植え込む事ができた。							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>					対応	未・済		
	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>					対応	未・済		

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[4] 健康づくりに係る事業

事業名	グラウンドゴルフ交流事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎さまざまな行事に、地域みんなで参加しましょう。 ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動を進めましょう。														
目的 (期待される効果)	○大塚台各地区にある公園を利用して、高齢者を中心に競技人口は増減しているが、健康維持、増進につながると同時に市の大会に参加し、広く交流と親睦を深めている。その基盤となるのが、地区交流事業である。 ○年1回、宮崎西小学校の運動場において、大塚台各地区の高齢者に参加を呼び掛け、大会を実施している。														
事業内容・手段	(1) グラウンドゴルフ大会の実施 ・コロナウィルス感染防止の為、中止														
事業費	13,100円														
対象者	大塚台団地住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td></td> <td>15人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td></td> <td>75人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者		60人	スタッフ		15人	合 計		75人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者		60人													
スタッフ		15人													
合 計		75人													
住民の声 (アンケートの結果等)	なし														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握		A	なし	広報	⑤事業の周知		B	なし
	②住民の参加		B	なし			事業の効果	⑥課題解決への作用	
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性		A	なし	⑦住民の満足度				A
	④各種団体との連携		A	なし		事業継続の必要性		有 ・ 無	
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等> 準備までは整えていたが、コロナウィルス感染が、参加者の中でも見られた為、中止となった。購入済みの商品等は次年度に流用する。</p>								
地域協議会からの意見への対応	<p><地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>						対応	未・済	
	<p><地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）></p> <p><意見への対応></p>						対応	未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	ウォーキング事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎世代間交流を、さらに活発にしましょう。 ◎さまざまな行事に、地域みんなで参加しましょう。 ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動を進めましょう。 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎新米のお父さんお母さんに手助けしましょう。														
目的 (期待される効果)	○大塚台地区の街区公園の多くは、災害発生時の一時避難所に指定されているが、住居付近の公園しか知らない方も多い。 大塚台地区の住民の親睦を深め、健康維持・増進を図る目的で、一時避難所の確認をも兼ねたウォーキングを開催します。														
事業内容・手段	(1) 散策ルート (2時間程度) 3号公園 → 西1丁目 → 東1丁目 → 東2丁目 → 西3丁目 の各街区公園へ → 3号公園 ・参加人数 25名 ・実施時期 10月30日(土) ・時 間 10時スタート														
事業費	12,024円														
対象者	大塚台団地住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>17人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>25人</td> <td>26人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	17人	18人	スタッフ	8人	8人	合 計	25人	26人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	17人	18人													
スタッフ	8人	8人													
合 計	25人	26人													
住民の声 (アンケートの結果等)	・大塚台に長く住んでいるが、初めてきた場所が多かった。 ・第1次避難場所の場所が分かった。 ・久しぶりに大勢で歩いて楽しかった。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	事業開催時に、一緒に歩き、参加者の感想や要望を聞くようにした。	広報	⑤事業の周知	B	B	全戸配布をしているが、参加者が増えるよう小中学校にも参加を呼び掛けていく。
	②住民の参加	B	B	目標としていた参加者より少なかった。参加の働きかけを行いたい。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	大塚台全地区に行事の案内は勿論、高齢者クラブ等にも積極的に呼び掛ける。
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	ウォーキングを通して住民同士の親睦を深め、健康増進・維持を目的として取組んでいる。		⑦住民の満足度		A	A
	④各種団体との連携	B	B	西小学校や生目南中学校の生徒の参加を呼び掛けた。	事業継続の必要性				有・無
良かった点・改善点等		<ul style="list-style-type: none"> ・前方・中央・後方に部会員を配置し、全体の安全が確保されていてよかった。 ・水筒等の手荷物を軽減する為に車両を配置し、参加者から便利で楽だと評価を頂いた。 							
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応		未・済
	<意見への対応>						対応		未・済
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>						対応		未・済
	<意見への対応>						対応		未・済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	高齢者支援事業（サポートカー）	実施年数	2年目												
事業期間	開始：令和3年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	1. 絆が深い互助・共助のまち ◎高齢者に対して、見守り、声かけ、ふれあい活動を進めましょう。 住み慣れた大塚台、いつまでも、元気で														
目的 (期待される効果)	○大塚台地区内の高齢者の移動手段を確保するために、「大塚台を明るくする会」より移管された軽自動車を活用して、地区内の高齢者の病院通い(リハビリなど)やお買い物をサポートする。この取り組みを通じて、高齢者の閉じこもりを防止し、積極的な外出活動を支援し、健康増進を図る。														
事業内容・手段	1) ボランティアのドライバーによる送迎支援事業 2) リハビリ施設や病院通いの送迎 3) お買い物の送迎支援 4) その他、閉じこもりを防止し、積極的な外出活動を支援する														
事業費	305,986円														
対象者	大塚台団地住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般利用者</td> <td>1,042人</td> <td>770人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>8人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,050人</td> <td>780人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※事業内容に応じて男女別や年代別データ</p>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般利用者	1,042人	770人	スタッフ	8人	10人	合 計	1,050人	780人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般利用者	1,042人	770人													
スタッフ	8人	10人													
合 計	1,050人	780人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に行きは歩いて行けても、帰りが荷物がある為困っていたが、利用するようになって、荷物の心配をせずに買い物ができ、助かっている。 ・バスだと乗り継ぎが必要で、バスの本数がないので大変だったので、助かっている。 ・病院がバス通りではなかったり、大塚台はバスが通ってはいるが、本数が少ない為、大変だった。サポートカーができてよかった。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	利用者から情報や要望を聞き、詳しい説明が必要な時は、担当者が説明にまわっている。	広報	⑤事業の周知	A	B	カラーのチラシを全戸配布し、利用内容などを周知した。新規の利用者が増えるのを期待したい。
	②住民の参加	B	B	継続して利用する住民がたくさんいるが、新規の利用者が増える様、周知していく必要がある。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	まちづくりが運営に携わることで、地域全体と連携ができる。	事業の効果	⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	B	B	各種団体から協力を得ており、今後更なる協力関係の充実を図る。			事業継続の必要性		(有) ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・カラーのチラシを作成し、全戸配布して、サポートカーの事を住民に周知した。今すぐ必要ではなくても、目にとまって、困った時に思い出してもらいたい。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応	未・済		
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応	未・済		

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[5] 地域教育に係る事業

事業名	花まる事業	実施年数	4年目												
事業期間	開始：令和元年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	<p>3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎花いっぱいのもちづくりを推進しましょう ◎子どもは地域の宝。学校との交流を進めましょう</p>														
目的 (期待される効果)	<p>○大塚台の真ん中にある小学校の花づくりを、まちづくり・人づくりに生かす。 ○地域全体がまあるくなる事(手と手をつなぎ輪(まる)になる事や、人々の心が丸く優しくなる事)をめざす。 (1)花づくりでまちづくり ・学校周辺道路を行き交う多くの住民にとって、元気な子どもの声と美しい花がもたらす平和な気持ちと同時に、住みよいつ思えるまちづくりに寄与する。 (2)花づくりで人づくり ・教育の場である学校に、落ち着きと活気ある雰囲気醸し出すことで児童の成長を側面から支えることが出来る。 ・本来、学校中心に行う活動であるが、児童数の減少の今、児童・PTA・地域住民の共同作業によって、花づくりが地域の絆づくりに役立つこととなる。更に、このような幅広い年齢層の交流は、次代のまちづくりを担う人づくりに寄与する。</p>														
事業内容・手段	<p>(1)学校の花壇を整備する。 会 場 宮崎西小学校 実施時期 5月28日(参加者 30名)、10月2日(参加者 22名) 1月21日(参加者 5名) 内 容 花の植栽</p>														
事業費	57,685 円														
対象者	小学校・PTA・地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>40人</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>17人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>57人</td> <td>36人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	40人	25人	スタッフ	17人	11人	合 計	57人	36人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	40人	25人													
スタッフ	17人	11人													
合 計	57人	36人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<p>・学校に花がたくさんある事で、子ども達の学校生活に、癒やしを与える事ができると思う。 ・子ども達と一緒に植えることで、子ども達から元気をもらえた。</p>														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目	評価		特記事項	評価項目	評価		特記事項		
	本年度	前年度			本年度	前年度			
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	小学校と情報交換をしながら、花の種類などを決め、季節の花を選んでいる。	広報	⑤事業の周知	B	B	小学校やPTA美化班へ周知。コロナ禍の為、住民全体への呼びかけは控えた。
	②住民の参加	B	B	コロナ禍で参加人数を制限するため、住民全体への呼びかけは控えたが、小学生と保護者には参加をいただいた。	事業の効果	⑥課題解決への作用	B	B	台風の状況を見ながらコスモスの開花時期を長くする為に昨年より播種時期をあと2週間は早めたい。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	学校の美化活動では、児童数減少によりなかなかできないので、広い花壇や学校入り口の花壇を引き受けている。綺麗な花壇を維持する為、必要である。		⑦住民の満足度	A	B	地域の顔である小学校の花壇が綺麗に手入れされていると、とても気持ちがよい。複数回参加している子ども達がやり方を覚えていて率先して動いてくれた。
	④各種団体との連携	B	B	小学校、PTA美化班と連携して行っている。	事業継続の必要性		有 ・ 無		
良かった点・改善点等	<良かった点や改善した点等> ・密植にならないよう間隔をあけて植えた。								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応	未 ・ 済			
	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応	未 ・ 済			

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄に記載する必要はありません。

事業名	少年が大志を抱く事業 ～未来の大塚台を担うリーダー育成～	実施年数	4年目												
事業期間	開始：令和元年度	終了：	年度												
地域魅力発信 プランとの関連	3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎こどもは地域の宝。学校との交流を進めましょう														
目的 (期待される効果)	○現代の子ども達に失われているという3つの「間」、すなわち「時間」「空間」「仲間」を少しでも回復し、子どもの成長を後押しする地域の力を育む。 ○子どもの発想・子どもの手による事業を形成するために、地域の人やPTAは子どもと共に考え、子どもを応援していく。 ○子育ては、地域を挙げて取り組むという意識を地域全体に浸透させていく。														
事業内容・手段	<p>1) 生かせる地域の力を発掘し、団体や個人の協力を求め、子どもと大人の接する場をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR見学学習 <p>2) 子ども会育成会との共催により、地域での子育ての基盤を支える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマーキャンプ (8月)・・・中止 ・宇宙教室 (11月)・・・中止 ・科学教室 <p>会 場 大塚台地域事務所 小会議室 実 施 日 2月12日 9時30分 ～ 12時30分 内 容 液体窒素を使った実験 (39名)</p> <p>3) 大塚台児童センターとの共催により、地域での子育ての基盤を支える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもフェスタ 5月 ・七夕まつり 6月 ・秋まつり 10月 ・クリスマス会 12月 ・演奏会 1月 ・お祝い会 3月 														
事業費	24,534円														
対象者	子ども・PTA・地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>51人</td> <td>17人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>10人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>61人</td> <td>20人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	51人	17人	スタッフ	10人	3人	合 計	61人	20人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	51人	17人													
スタッフ	10人	3人													
合 計	61人	20人													
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・酸素が凍ったら青い水になったり、二酸化炭素を凍らせたならドライアイスができたり、身近な物の変化が勉強になった。 ・凍ったボールが爆発して怖かったけど、おもしろかった。 ・電車の仕事の裏側まで見られてよかった。 ・実際に電車に乗れて楽しかった。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	昨年度の行事参加者に聞き取り調査をして結果を反映している。	広報	⑤事業の周知	B	B	行事ごとに、小中学校や西小っ子クラブへの周知。SNSを使った広報。
	②住民の参加	B	B	チラシだけの募集では少数だった為、大塚台子連協にSNSを使った広報を依頼し、ある程度の人数を集める事ができた。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	B	コロナ禍で体験の機会が減った児童らに、体験的なキャリア教育を行った。	⑦住民の満足度	A			B
	④各種団体との連携	B	B	学校や子ども会など各種団体と連携して実施している。		事業継続の必要性		有・無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・科学教室では、机の配置を工夫して、児童が実験エリアに容易に立ち入らないようにした。 ・昨年度はバス会社の見学であった為、業種を変えて企画した。電車に乗った事が無い児童もいるので、良い経験になった。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>				対応		未・済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>				対応		未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会が出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	my米(マイマイ)事業	実施年数	3年目												
事業期間	開始：令和2年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎こどもは地域の宝。学校との交流を進めましょう														
目的 (期待される効果)	<p>○パソコンや携帯電話などの情報機器の普及した現代社会では、特に子ども達にとって土に触れたり、自然の力に畏敬の念を感じたりする機会が少なくなっていることが危惧される。</p> <p>その点「米作り」は、五感を働かせ、協働の必要性や、食の大切さなども学べる貴重な場である。</p> <p>大塚台においては、子どものみならず、父母・祖父母の世代でも農業体験のない人が多く、また、田んぼもないため、この貴重な場をあえて設ける必要がある。</p> <p>○米は日本人の主食であり、古代より米作りはむらづくり・くにづくりであった事からも、稲作事業をまちづくりに生かす事を目的とする。</p>														
事業内容・手段	<p>1) 稲作体験(田植え) 会 場 宮崎市生目(生目神社権禰宜高妻氏所有) 実 施 日 6月26日 10時 ~ 12時 内 容 田植え(参加者 36名)</p> <p>2) 稲作体験(稲刈り) 台風の影響で、スケジュールがあわず中止</p>														
事業費	21,600 円														
対象者	子ども・PTA・地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>30人</td> <td>44人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>6人</td> <td>13人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>36人</td> <td>57人</td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	30人	44人	スタッフ	6人	13人	合 計	36人	57人
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	30人	44人													
スタッフ	6人	13人													
合 計	36人	57人													
住民の声(アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な体験をさせてもらった。また参加したい。 ・こういう企画をしてもらえて有り難い。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B	B	小学校での総合学習で行ってきた田植えがなくなり、子育て世代から要望が多く上がっていた。	広報	⑤事業の周知	B	B	参加対象である小中学生に届くよう、小中学校で配付してもらった。
	②住民の参加	B	B	コロナ禍であり、参加人数を制限するため、小中学生とその保護者のみへの呼び掛けとした。ちょうどよい人数の参加であった。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	子ども達の貴重な体験の機会であり、他の団体ではできない事業となっている。	事業の効果	⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	B	B	できる限り、小学校と連携を取りながらすすめた。			事業継続の必要性		有 ・ 無
良かった点・改善点等	<p><良かった点や改善した点等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は田んぼ全体を植えようとして休憩が少なかったり、時間オーバーしたので、今回は植える範囲を設定し、休憩を半分でとり、時間通りに終了した。 ・当該水田の持ち主から来年度の体験を断られた為、稲作に変わるものを考えたい。 								
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>								
	<意見への対応>						対応		未 ・ 済
地域協議会からの意見への対応	<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>								
	<意見への対応>						対応		未 ・ 済

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

[6] その他の事業

事業名	リーダー育成事業	実施年数	14年目												
事業期間	開始：平成21年度	終了： 年度													
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎さまざまな行事に、地域みんなで参加しましょう ◎知識・技術・特技を持った人材を掘り起こし、地域みんなの力を活かしましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎商店街が活気あるところになるよう、協力しましょう														
目的 (期待される効果)	○令和元年度、宮崎西小学校5年生の総合的な学習の一環で、まちづくり推進委員会を含めた地域との交流をテーマに、児童が主体的に考え、実践するという授業が行われた。令和2年度はコロナ禍により中止を余儀なくされたが、令和3年度は一部開催できた。今年度の詳細は未定であるが、小学校としては同様の取り組みを考えておられるようなので、まちづくりとしても協力していく。 ○体験型の研修 今年度は地域住民に楽しんで参加していただけるような、創作活動を通じて心とむひとときを一緒に過ごし、今後、まちづくり推進委員会に興味をもっていただけるような研修を企画したい。														
事業内容・手段	(1)宮崎西小学校5年生との交流事業 開催日 7月11日 9時～10時05分 開催場所 宮崎西小学校体育館(図書室並びに各教室) 参加者 宮崎西小学校生徒 26名 先生他 1名 まちづくり推進委員 6名 地域事務所 1名 開催日 12月16日 9時～10時 開催場所 ・大塚台地域事務所(小・大会議室)・県営住宅集会所 ・セラヴィ大塚台集会所 参加者 宮崎西小学校生徒 26名 先生 6名 各地区参加者 40名 地域事務所 3名 (2)研修会(広がれ、助け合いの輪!みやざき交流集会2022inみまた) 開催日 12月13日 13時～16時30分 開催場所 三股町ビオトープ 参加者 まちづくり推進委員 4名														
事業費	18,558円														
対象者	まちづくり推進委員、地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>99人</td> <td>49人</td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>15人</td> <td>29人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>114人</td> <td>78人</td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	99人	49人	スタッフ	15人	29人	合計	114人	78人
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	99人	49人													
スタッフ	15人	29人													
合計	114人	78人													
住民の声(アンケートの結果等)	・まちづくり推進委員会の役割について、発表時間が短く、内容を縮めるのに苦労した。子ども達から積極的な意見や質問があり、子ども達が真剣に取り組んでいることに、自分たちも頑張らなくては。とエールをもらった。 ・子ども達が昔懐かしい遊びを思い出させてくれて、感謝です。 ・花の押し花の葉をもらい、感激している。 ・三股町社協の地域活動等の立ち上げを体感できた。社協、各種団体など幅広い方々、若い人の参加が多く見かけられ、大塚台も世代交代がないとダメだと思いました。														

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項
		本年度	前年度				本年度	前年度	
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	小学校の総合学習として、地域の課題に気づき、学び、考える学習をまちづくりが間にはいり地域の方々と結びつけている。	広報	⑤事業の周知	B	B	子ども達で作ったチラシを配布して、周知した。
	②住民の参加	B	B	まちづくりの部会や高齢者クラブなどに参加をよびかけ、各会場に分かれ参加してもらった。			事業の効果	⑥課題解決への作用	B
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	B	B	5年生の情操教育の一環であり、まちづくりのリーダーと接することで地域の理解ができる。	事業の効果	⑦住民の満足度			A
	④各種団体との連携	B	B	まちづくりの部会や高齢者クラブに参加の呼び掛けをした。今後は小中学校PTAにも参加をよびかけたい。			事業継続の必要性		○有 ・ 無
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・ ボランティアセンター部会に1会場を担当していただき、スムーズに運営ができた。 ・ 今回は、主に高齢者クラブと連携であったが、スポーツ部会や青少年部会との交流も考えたい。							
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>					対応	未・済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>					対応	未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『有』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	大塚台総合夏祭り事業	実施年数	3年目												
事業期間	開始：令和2年度	終了：													
地域魅力発信プランとの関連	2. きずなが深い互助・共助のまち ◎さまざまな行事に、地域みんなで参加しましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎商店街が活気あるところになるよう、協力しましょう														
目的 (期待される効果)	○平成30年度及び、令和元年度に、大塚台を明るくする会が主催して行った「大塚台総合夏まつり」については、令和元年度よりまちづくり推進委員会も協力という形で支援してきました。今後の大塚台のまちづくりを考慮すると「大塚台地域まちづくり推進委員会」がイニシアチブを発揮した方が、地域全体の取り組み・行事に発展すると判断し、地域発展の中核事業にしていくため、令和2年度より主催事業として取り組みました。令和2年度及び3年度は、新型コロナの影響により実施できませんでしたが、この事業を実施することと、その過程において、地域住民との連携や交流がより深いものになると考えています。														
事業内容・手段	(1)大塚台総合夏祭り 1)夏祭り内容・・・実施時期 8月末から延期 10月8日(土)に実施 参加人数 1,113名 ①各種団体によるステージ(歌・遊戯・コーラス・吹奏楽・ダンス等) ②各自治会等による出店(焼き鳥・焼きそば・綿菓子・野菜販売) ③参加者全員を対象にしたお楽しみ抽選会 ④子ども達を対象にした縁日 ⑤住民総踊り														
事業費	240,660円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年 度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td>1,065人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td>48人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,113人</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			年 度	令和4年度	令和3年度	一般参加者	1,065人		スタッフ	48人		合 計	1,113人	
年 度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者	1,065人														
スタッフ	48人														
合 計	1,113人														
住民の声 (アンケートの結果等)	<ul style="list-style-type: none"> ・開催時期として、ちょうどよかった。 ・子ども達がとても楽しみにしていた。ゲームコーナーがあり、子ども達が楽しんでいた。 ・ステージに園児や小中学生がたくさん出演していて、盛り上がっていた。せんぐまきや抽選会もあり、住民が多数参加し、楽しい企画が随所にみられた。 														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	B		実行委員会を開き、自治会や各種団体からの意見を聞きながら実施した。	広報	⑤事業の周知	B		カラー印刷でチラシを配布をし、追加でステージ内容等のチラシも配布して、周知した。子ども達は回覧板を見ないので、小中学校へ掲示してもらおうとよかった。	
	②住民の参加	A		3年ぶりの地域でのお祭りでしたので、子どもから高齢者までたくさんの方が参加した。		事業の効果	⑥課題解決への作用	A		コロナ禍での開催でしたが、非接触型体温計を設置し、受付で来場者名簿で把握し、安心安全なイベント開催に努めた。
効果的・効率的な取組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A		大塚台地区を代表した大きなイベントで、いろんな団体と連携がとれるまちづくりが取組むべき活動である。			⑦住民の満足度	A		子ども達がとても楽しみにしていた。ステージも保育園や小中学校からの参加もあり、盛り上がっていた。抽選会やせんぐまきもあり、楽しいお祭りだった。
	④各種団体との連携	A		実行委員に各自治会長や団体の代表に入っただき、小中学校とも連携をとりながら開催できた。	事業継続の必要性		○有 ・ 無			
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> コロナの感染状況から、8月から10月へと日時を変更したが、熱中症の心配がなく、スタッフからも秋の開催がよいという声が多かった。10月になると、運動会準備の為、小学校の運動場を駐車場として使用出来ない為、駐車場に関して検討が必要である。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>				対応		未・済		
		<意見への対応>								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）>				対応		未・済		
		<意見への対応>								

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業名	まちづくり事業活動支援事業	実施年数	11年目												
事業期間	開始：平成24年度	終了：	年度												
地域魅力発信プランとの関連	1. 安心・安全で災害に強いまち ◎地域の見守りに取り組みましょう ◎命を守るため、防災意識を高めましょう 2. きずなが深い互助・共助のまち ◎さまざまな行事に、地域みんなで参加しましょう 3. 若者も高齢者も住みよいまち ◎商店街が活気あるところになるよう、協力しましょう														
目的 (期待される効果)	○まちづくり推進委員会で車をリースし、事業活動の運営や広報、また事務局の円滑な運営活動に役立てる。 ○各事業の運営に必要な会議、準備を円滑に進める。 ○まちづくり広報活動として、チラシや情報紙を発行する。 ○まちづくり事務局運営を円滑に進める。														
事業内容・手段	(1) リース車両 実施時期 通年 使用例 まちづくり推進委員会各事業活動時、事務局運営時、防犯パトロール活動時、防災広報活動時 (2) 事業活動の広報 ①事業チラシ ②情報紙発行 ③SNSの活用(Facebook) 実施時期 ①随時 ②7月、3月 ③随時 (3) 各部会の開催 (4) 事務局運営														
事業費	1,055,483円														
対象者	地域住民														
参加者数 (内訳)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般参加者</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>スタッフ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			年度	令和4年度	令和3年度	一般参加者			スタッフ			合計		
年度	令和4年度	令和3年度													
一般参加者															
スタッフ															
合計															
住民の声(アンケートの結果等)	・各部会の研修会などの案内文書やチラシ作りにも協力いただき、素晴らしいものができています。 ・事務局が部会員と連絡やコミュニケーションをとっていて、スムーズに活動ができています。														

◆自己評価（評価：A 良い B 普通 C 要改善）

評価項目		評価		特記事項	評価項目		評価		特記事項	
		本年度	前年度				本年度	前年度		
住民主体のまちづくり	①地域ニーズの把握	A	A	役員会等で、部会員に随時、意見・要望を聞き行動している。	広報	⑤事業の周知	B	A	地域内全戸配布による広報紙だけでなく、公民館や社協、小学校への配布や掲示をしている。今年度はFacebook等での案内ができなかった。	
	②住民の参加	B	B	事業の特性上、住民の参加等はない。			事業の効果	⑥課題解決への作用	A	A
効果的・効率的な取り組み	③地域まちづくり推進委員会の取組としての妥当性	A	A	すべての部会に係わり、協力しながら活動をする上で重要な事業である。	⑦住民の満足度				A	A
	④各種団体との連携	B	A	地区社協・公民館・自治会連合会等の団体と連携すべきだが、様々な人間関係により、うまく連携できていないところがある。			事業継続の必要性		○有 ・ 無	
良かった点・改善点等		<良かった点や改善した点等> ・今までコロナ禍で中止だった事業が、半分くらい実施できるようになり、事務局と部会が協力しあって、無事に開催できた。								
地域協議会からの意見への対応		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>					対応		未・済	
		<地域協議会からの意見（令和 年 月・ ）> <意見への対応>					対応		未・済	

※ 「地域協議会からの意見への対応」の欄は、地域協議会で出された意見とその対応を記載します。その際、「対応」の欄が『未』の場合は、継続して記載し、「対応」の欄が『済』になった場合は、次回以降の事業計画、又は事業実施報告の当該欄を記載する必要はありません。

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	地域安全見守りパトロール応援事業
-----	------------------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	78,425	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	78,425	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	78,425	消耗品費 57,863 ・用紙代 4,080 ・のぼり旗(交通安全協会) 22,000 ・のぼり旗(青ノパト) 22,000 ・パイプ・針金 7,103 ・アルコールチェッカー 2,680 食糧費 16,242 ・会議用お茶 10,416 ・街頭キャンペーン時お茶 5,826 燃料費 4,320
5	役員費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	78,425	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	自主防災事業
-----	--------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	23,384	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	23,384	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	12,000	研修会講師謝金
3	旅費	2,040	講師旅費
4	需用費	9,344	消耗品費 3,944 ・講師 お礼 菓子 3,944 食糧費 5,400 ・お茶 5,400
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	23,384	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	災害時医療支援ボランティア活動事業
-----	-------------------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	28,120	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	28,120	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費		
3	旅費		
4	需用費	28,120	消耗品 23,857 ・研修会(2回) 4,368 講師お礼 菓子 ・段ボールベット×2個 15,780 ・役員会 お茶 1,896 ・非常食 1,665 ・カイロ(応急セット) 148 食糧費 4,263 ・打ち合わせ用お菓子 951 ・お茶 3,312
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	28,120	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	ふれあい活動事業
-----	----------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	34,782	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	34,782	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費		講師謝金
3	旅費		講師旅費
4	需用費	34,782	消耗品費 16,151 ・映画鑑賞会DVD(2枚) 5,695 ・研修会 講師お礼菓子 2,160 ・映画鑑賞時 お茶 3,792 ・コピー用紙 4,504 食糧費 18,631 ・お茶、茶菓子(映画鑑賞) 6,417 ・お茶、茶菓子(福祉講演会) 4,866 ・お茶、茶菓子(サークル活動) 5,692 ・会議用お茶 1,656
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	34,782	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	子育て支援事業
-----	---------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎活動交付金	43,747	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	43,747	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	2,000	講師謝金 2,000
3	旅費	0	
4	需用費	30,747	消耗品費 15,065 ・色鉛筆・クーピー 1,579 ・コピー用紙 8,157 ・除菌用品・ビニール他 5,329 食糧費 15,682 ・食材費 11,201 ・お茶・ 4,481
5	役務費	1,000	1日保険料 1,000
6	負担金	10,000	講習会受講料 10,000
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	43,747	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	ボランティア事業
-----	----------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	95,172	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	95,172	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	6,000	講師謝金 6,000
3	旅費	6,500	講師・研修旅費 6,500
4	需用費	44,554	消耗品費 3,977 ・事務用品 3,977 食糧費 40,577 ・お茶菓子(地区別交流会) 22,337 ・研修会・会議用お茶 18,240
5	役務費	38,118	通信運搬費 6,968 ・電話代 6,968 保険料 31,150 ・ボランティア保険加入料 (350円×89人) 31,150
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	95,172	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	里山創造活動事業
-----	----------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	70,722	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	70,722	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	70,722	消耗品費 70,722 ・カラーファイル 1,372 ・樹脂杭 95本 69,350
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	70,722	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	環境美化活動事業
-----	----------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	41,819	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	41,819	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	41,819	消耗品費 34,988 ・肥料代 33,360 ・ゴミ袋 1,628 食糧費 6,831 ・作業休憩時お茶・菓子 6,831
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	41,819	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	グラウンドゴルフ交流事業
-----	--------------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	13,100	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	13,100	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	11,500	消耗品費 11,500 ・景品(商品券) 11,500
5	役員費	1,600	保険代 1,600
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	13,100	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	ウォーキング事業
-----	----------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	10,424	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	1,600	参加料
4	合計 (A)	12,024	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	11,024	消耗品費 4,078 ・用紙代 4,078 食糧費 6,946 ・お茶 1,896 ・スタッフ弁当 5,050
5	役務費	1,000	1日保険料 1,000
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	12,024	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	高齢者支援事業
-----	---------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	305,986	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	305,986	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	140,226	燃料費 133,428 消耗品代 6,798 ・チラシ印刷代 6,798
5	役務費	153,960	サポートカー保険料 121,020 自賠責保険 17,540 車検基本料金 15,400
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	公課費	11,800	軽自動車税 5,000 重量税・印紙代 6,800
11	合計 (B)	305,986	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	花まる事業
-----	-------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	57,685	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	57,685	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	57,685	消耗品費 54,108 ・培養土 2,192 ・肥料、農薬散布じょうろ他 20,000 ・資材代(ひまわり・ペチュニア専用液肥他) 30,000 ・花植栽(お茶・菓子) 1,916 食糧費 3,577 ・作業時お茶・菓子 3,577
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	57,685	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	少年が大志を抱く事業～未来の大塚台を担うリーダー育成～
-----	-----------------------------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	24,534	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	24,534	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	13,080	バス乗車券 9,100 JR乗車券 3,980
4	需用費	10,454	消耗品費 3,170 ・実験用気体(科学教室) 680 ・見学学習お礼ギフト 2,160 ・ペーパーカップ 330 食糧費 7,284 ・パン(JR見学学習時) 7,155 ・お茶 129
5	役務費	1,000	1日保険料 1,000
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	24,534	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	my米(マイマイ)事業
-----	-------------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	21,600	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	21,600	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	18,000	・田植え 講師謝金 @3,000円×6h 18,000
3	旅費	0	
4	需用費	2,600	食糧費 2,600 ・お茶、お菓子 2,600
5	役務費	1,000	1日保険料(田植・稲刈り) 1,000
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	21,600	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	リーダー育成事業
-----	----------

(単位:円)

(1)収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	18,558	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	0	
4	合計 (A)	18,558	

(2)支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	9,410	日当 2200円×4名 8,800 交通費 610
4	需用費	9,148	消耗品 1,508 ・ノート(西小5年生交流会 景品) 1,508 食糧費 7,640 ・お菓子(西小5年生交流会 来場者用) 7,640
5	役務費	0	
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	0	大塚台中央自治公民館利用料
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	18,558	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	大塚台総合夏祭り事業
-----	------------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	230,660	
2	令和3年度繰越金	0	
3	雑収入	10,000	綿菓子売上
4	合計 (A)	240,660	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	0	
4	需用費	207,360	消耗品費 153,664 ・抽選会 景品 90,718 ・ステージ出演者 景品 16,963 ・せんぐまき用お菓子 19,802 ・綿菓子用カップ・ザラメ 7,851 ・神輿材料 330 ・紅白餅 18,000 食糧費 45,000 ・スタッフ弁当 45,000 印刷製本費 8,696 ・開催案内チラシ 8,696
5	役務費	10,000	1日保険 10,000
6	委託料	10,000	司会料(2名分) 10,000
7	使用料及び賃借料	13,300	綿菓子用 機材 3,300 音響 10,000
8	原材料費	0	
9	備品購入費	0	
10	積立金	0	
11	合計 (B)	240,660	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

事業別収支計算書

大塚台地域自治区
大塚台地域まちづくり推進委員会

事業名	まちづくり事業活動支援事業
-----	---------------

(単位:円)

(1) 収入の部

番号	項目	金額	備考
1	基礎交付金	135,449	
2	令和3年度繰越金	920,019	
3	雑収入	15	預金利息
4	合計 (A)	1,055,483	

(2) 支出の部

番号	科目	金額	備考
1	賃金	0	
2	報償費	0	
3	旅費	51,000	役員活動費(17名分)
4	需用費	438,569	消耗品費 309,176 ・事務用品 75,664 ・用紙・インク 192,483 ・ナット・紙コップ 933 ・衛生用品 30,885 ・ゴミ袋・ポリ袋 5,419 ・お茶 3,792 修繕費 35,000 ・パソコン修理 35,000 食糧費 45,450 ・会議用お茶 29,304 ・お弁当 16,146 印刷製本費 5,970 ・広報紙 5,970 燃料費 42,973 ・リース車両給油 42,973
5	役務費	79,461	手数料 1,100 ・振込手数料 1,100 通信運搬費 78,361 ・電話・インターネット利用料 78,361
6	委託料	0	
7	使用料及び賃借料	363,000	車両リース代・駐車料金 363,000
8	原材料費	0	
9	備品購入費	123,453	非接触型体温計 110,000 デスクマット 13,453
10	積立金	0	
11	合計 (B)	1,055,483	

収支差額 (A) - (B)	0
----------------	---

(様式第7号)

積立金管理状況報告書

大塚台地域自治区

大塚台地域まちづくり推進委員会

積立金名称	事業運営積立基金
-------	----------

積立金の収支

(単位：円)

番号	項目	金額	備考
1	前年度までの積立額	1,950,508	目標額 2,000,000円
2	積立額	0	
3	取崩額	0	
4	雑収入	16	預金利息
5	合計	1,950,524	

(様式第9号)

宮崎市地域コミュニティ活動交付金繰越届出書

令和5年5月10日

宮 崎 市 長 殿

主たる事務所の所在地 宮崎市大塚台西2丁目18番地1
名 称 大塚台地域まちづくり推進委員会
代表者の氏名 会長 相徳勝則
電話番号 0985-47-2010

令和4年3月31日付で交付決定のありました地域コミュニティ活動交付金については、決算において 874,833円の残金があり、繰越金として次年度の会計へ繰り越しますので届け出ます。

添 付 書 類

令和4年度収支決算書

令和 5年 5月 2日

令和4年度 大塚台地域まちづくり推進委員会への意見書 [事業実施報告]

大塚台地域自治区地域協議会
会長 湯浅 和憲

令和4年度の大塚台地域自治区の地域まちづくり事業実施報告及び収支決算については、第1回大塚台地域自治区地域協議会定例会(令和5年4月27日に開催)において協議した結果、事業計画及び収支予算に沿って適正に執行されていることから賛成多数で承認されました。

記

1. 総括

新型コロナウイルスまん延防止等重点措置適用により、事業の延期や中止もありましたが、大塚台の祭りを開催するなど各事業とも積極的に取り組まれています。今後とも部会員の意識向上と部会間の有機的な連携を図りながら、地域住民のニーズ即した事業の推進をお願いします。

2. 事業の推進体制

特になし

3. 各事業への意見(意見のある事業のみ記載)

事業名	意見
環境美化活動事業	グリーンヒルズの花壇の植栽は、地権者の協力を得るように努めてください。
m y 米(マイマイ)事業	稲作に替わる事業に、中学生も参加できる内容の充実をお願いします。